

NO36 寛永・元禄文化

山川の教科書で江戸の文化区分が五つに分けられました。化政文化が、「宝暦・天明文化」と「化政文化」に分かれました。時期を問う年代順配列で注意しなくてはなりません。

NO257 武士・民衆に愛好された文化 2004 追試

中世から近世にかけて、武士や民衆に愛好された文化について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 清元節は、出雲阿国が考案した踊りである。
- ② 室町時代、庶民の間に小唄がはやった。
- ③ 『国性爺合戦』は、御伽草子の代表的作品である。
- ④ 『節用集』は、鎌倉時代の民間伝承を編集した作品である。

正解→清元節は座敷などで歌われた唄浄瑠璃のこと、阿国歌舞伎が出雲阿国。国性爺合戦は元禄時代の人形浄瑠璃。節用集は室町時代中期、奈良の商人によって刊行された辞書。よって正解→②

NO258 西洋の情報摂取 2010 本試験

西洋の情報の摂取に関して述べた次の文について、古い順に並べよ。

- I 新井白石が、イタリア人宣教師シドッチを尋問した。
- II 幕府の天文方に、翻訳のための蛮書和解御用がおかれた。
- III 漢訳洋書のうち、キリスト教にかかわらないものの輸入が認められた。

答→I、III、II 新井白石の正徳の治後に行われた徳川吉宗の享保の改革で、漢訳洋書の輸入制限が緩和されたことにより洋学が発展し、化政期に蛮書和解御用が設置されたという、洋学の大きな流れをつかんでいけば正解できる。

NO259 江戸時代の文化・思想 2006 本試

江戸時代の文化・思想について述べた文として誤っているものを、次から一つ選べ。

- ① 『広益国産考』などの農書によって、新しい農業技術が広まった。
- ② 『日本永代蔵』などの浮世草子には、現世を生き抜く町人の姿が描かれた。
- ③ 『経済録』を著した太宰春台は、藩による商業活動の重要性を説いた。
- ④ 『聖教要録』を著した山鹿素行は、積極的な貿易拡大を説いた。

正解→『聖教要録』は武士日用の道徳を主張したもの。

NO260 江戸時代の学問 2005 追試

江戸時代の学問について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 吉田光由が『塵劫記』を著し、和算の普及に寄与した。
- ② 中国の暦を訂正した貞享暦が作成された。
- ③ 北村季吟は、日本の古典を収集して、『群書類従』を編纂した。
- ④ 動物や薬草などの研究を行う本草学が発達した。

答→北村季吟→塙保己一。北村季吟は古典注釈を行なう。

NO261 近世の印刷物 2014 本試

近世の印刷物に関して述べた次の文 I～III について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の(1)～(6)のうちから一つ選べ。

- I 宣教師が伝えた活字印刷術によって、天草版(キリンタン版)が作られた。
- II 『日本永代蔵』などの、浮世草子と呼ばれる小説が著された。
- III 喜多川歌麿が、多色刷の浮世絵版画(錦絵)の絵師として活躍した。

Pain is inevitable Suffering is optional

- (1) I - II - III (2) I - III - II (3) II - I - III
- (4) II - III - I (5) III - I - II (6) III - II - I

正解→I 桃山文化-II 元禄文化-III 化政文化で(1)が正解

NO262 鎖国体制が完成したころの建造物 2004 本試

鎖国体制が完成した時期の建造物甲・乙について述べた文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- a 甲は、徳川家康を祀る霊廟の門である。
- b 甲は、儒学の祖である孔子を祀る霊廟の門である。
- c 乙は、俳諧の流行を受けて造られた権現造の代表的建造物である。
- d 乙は、茶の湯の流行を受けて造られた数寄屋造の代表的建造物である。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

正解→甲は日光東照宮陽明門、権現造の代表的な建造物である。乙は数寄屋造の建造物で桂離宮。よって②が正解

NO263 絵画と版画 2005 追試

次の甲・乙に関して述べた文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- a 甲の作者は、錦絵をはじめたといわれる。
- b 甲の作者は、浮世絵版画をはじめたといわれる。
- c 乙は東洲斎写楽の作品である。
- d 乙は喜多川歌麿の作品である。

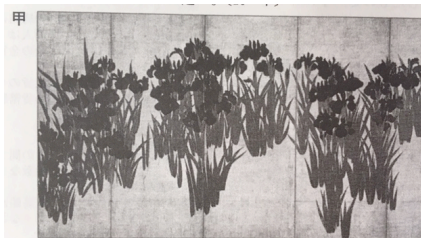
- ① - a・c ② - a・d ③ - b・c
- ④ - b・d

正解→b 浮世絵版画、乙喜多川歌麿で③



NO264 絵画と芸能 2010 本

次の甲・乙に関して述べた文 a・d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。



- a 甲の作者は、土佐派を復興し、朝廷の絵師となった。
- b 甲の作者は、俵屋宗達の画風を取り入れ、装飾画法を大成した。
- c 乙の芸能分野では、坂田藤十郎などの名優が活躍した。
- d 乙の芸能分野では、竹本義太夫などの語りが人気を博した。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

正解→甲:尾形光琳の「燕子花図屏風」である。

乙:人形浄瑠璃の様子である。

a・b 俵屋宗達の作風を継承する尾形光琳は、「燕子花図屏風」「紅白梅図屏風」などの作品を残した。土佐派の土佐光起は、朝廷の御用絵師として活躍した。

武器としての日本史

Pain is inevitable Suffering is optional

c・d 人形浄瑠璃では、近松門左衛門が脚本家、竹本義太夫が語り手、辰松八郎兵衛が人形遣いとして活躍した。歌舞伎では、江戸で市川團十郎が荒事(勇壮な演技)、大坂で坂田藤十郎が和事(恋愛劇)、吉沢あやめが女形で人気を博した。

正解→④

NO265 江戸の美術・工芸 2017

次の作品 XY と、それに該当する作者名 ad との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。



a 住吉如慶 b 菱川師宣 c 尾形光琳 d 野々村仁清

① X-a Y-c ② X-a Y-d ③ X-b Y-c ④ X-b Y-d

正解→X→菱川師宣の見返り美人、Y→八橋蒔絵螺鈿硯箱は尾形光琳



野々村仁清の「色絵藤花茶壺」

小説・芸能・美術・建築

分野	種類	作者	代表作	その他
芸能	歌舞伎	元【市川團十郎】(荒事)、元【坂田藤十郎】(和事)	が人気を博す	
	人形浄瑠璃	元【近松門左衛門】(脚本)、元【竹本義太夫】(語り手)	が担い手となる	

美術	障壁画	桃【狩野永徳】	【洛中洛外図屏風】	
		寛【俵屋宗達】	【風神雷神図屏風】	大和絵の手法用いる
		元【土佐光起】		土佐派が朝廷絵師となる
	元【尾形光琳】	【紅白梅図屏風】 【八橋蒔絵螺鈿硯箱】	【 】の画風を取り入れ、琳派と称される	
浮世絵	元【菱川師宣】	【見返り美人図】	肉筆画(画家自身が筆で描いた絵画)	
	【権現】造	寛【日光東照宮】	徳川家康を祀っている派手で豪華	
建築	【数寄屋】造	寛【桂離宮】	書院造に草庵風茶室をとり入れた建築	

NO266 文化史に関連する年代順配列

問3 下線部cに関連して、近世の印刷物に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の(1)～(6)のうちから一つ選べ。

Ⅰ 宣教師が伝えた活字印刷術によって、天草版(キリシタン版)が作られた。

Ⅱ 『日本永代蔵』などの、浮世草子と呼ばれる小説が著された。

Ⅲ 喜多川歌麿が、多色刷の浮世絵版画(錦絵)の絵師として活躍した。

(1) Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ (2) Ⅰ-Ⅲ-Ⅱ (3) Ⅱ-Ⅰ-Ⅲ

(4) Ⅱ-Ⅲ-Ⅰ (5) Ⅲ-Ⅰ-Ⅱ (6) Ⅲ-Ⅱ-Ⅰ

正解→

NO267 元禄文化 2007 追試

次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に並び替えよ。

Ⅰ 徳川光圀の援助を受けて、『万葉集』の注釈書である『万葉代匠記』が著された。

Ⅱ 『源氏物語』の配役を借りた『修紫田舎源氏』の作者が、天保の改革で処罰された。

Ⅲ 赤穂事件から約半世紀を経て、『太平記』の世界を時代背景に借りた『仮名手本忠臣蔵』が作られた。

正解→天保の改革が一番新しいところから始める。徳川光圀は江戸時代前期の人、家康の孫である。赤穂事件は1701年、約半世紀を経てとあるから18世紀後半、よって正解→Ⅰ-Ⅲ-Ⅱ

2018 本試 海外からの文化

近世日本が海外から取り入れた技術・文化に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

Ⅰ 活字印刷術を用いた天草版(キリシタン版)が出版された。

Ⅱ 亜欧堂田善が、西洋画の技法を用いた作品を描いた。

Ⅲ 幕府は高島秋帆に、西洋砲術の演習を行わせた。

① Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ ② Ⅰ-Ⅲ-Ⅱ ③ Ⅱ-Ⅰ-Ⅲ

④ Ⅱ-Ⅲ-Ⅰ ⑤ Ⅲ-Ⅰ-Ⅱ ⑥ Ⅲ-Ⅱ-Ⅰ

正解→キリシタン版は16～17世紀、亜欧堂田善は18世紀後期～19世紀前期、高島秋帆は1

武器としての日本史

Pain is inevitable Suffering is optional

9世紀中期、従ってⅠ-Ⅱ-Ⅲで①

儒学と国学の発展

朱子学

京学:P1 **藤原惺窩** から始まる ①彼は相国寺の僧で②家康に招かれたけど断り、弟子の林羅山を推薦した。③**近世儒学の祖**と呼ばれた。

:P2 **林羅山** は林家の祖 ①建仁寺の僧で② 封建的秩序を正当化する学問として近世朱子学を大成。③家康に用いられ、その後も秀忠・家光・家綱に仕えた。『P3 **本朝通鑑**』

:P4 **林信篤** ①綱吉が P5 **大学頭** に任命、さらに②綱吉が湯島に聖堂を作りこれを任せると、ここに付属の P6 **聖堂学問所** を作った。

:P7 **木下順庵** ①加賀藩主 P8 **前田綱紀** に仕え②綱吉の侍講に。

:P9 **新井白石** ①順庵の弟子で、②正徳の治を推進③著作も大切

満点の極意【新井白石の著作】

史論	『読史余論』幕府の正統性を解く
古代史叙述法	『古史通』日本書紀の解釈
自叙伝	P10『折りたく柴の記』
西洋研究	『P11 西洋記聞』『采覧異言』

順庵の弟子 あと2人押さえる

:P12 **室鳩巢** 【吉宗の侍講】+P13 **雨森芳洲** 対馬藩に仕え、日朝外交の実務を担当

南学:戦国時代、P14 **南村梅軒** が土佐の吉良氏に招かれて始まった。

:P13 **山崎闇斎** ①会津藩主 P14 **保科正之** に仕え、②神道・儒教の一致を唱えて垂下神道を創始した。

陽明学 朱子学に批判の目を向けた

:P15 **中江藤樹** ①P16 **近江聖人** と呼ばれた②日本陽明学の祖③著作『P17 **翁問答**』

:P18 **熊沢蕃山** ①岡山藩主 P19 **池田光政** に仕えた③『P20 **大学或問**』で武士の帰農などを説き幕政批判の罪で下総《難関レベル》P21 **古河** に幽閉された。

古学 キーワードは孔子・孟子に帰れ

聖学:P22 **山鹿素行** ①古学の先駆者②『P23 **聖教要録**』で朱子学を批判し《難関レベル》P24 **赤穂** に配流された。

古義学:P25 **伊藤仁斎** (父)東涯(子)著作は覚えなくてよい。京都堀川に私塾 P25 **古義堂** を開き、武士・町人らを多く育てた。

古文辞学 ①古典文献の研究法を確立②政治を重視、政治と道徳を分けて考えた。

P26 **荻生徂徠** ①江戸に P27《難関レベル漢字で書け》**藤園塾** を開いた。②吉宗の侍講に(鳩巢とペアで覚える)③そして著作 P28『**政談**』は、吉宗に献上した意見書だ。

P29 **太宰春台** ①徂徠の弟子で、徂徠の経世論を継承した。②著作は P30『**経済録**』

国学

学問	特徴
国学 古学の影響を受ける。 外来の思想(仏教・儒教)などを排除し、それ	元【 北村季吟 】⇒俳諧・和歌を学び、幕府の歌学方となる 元【 契沖 】⇒『万葉集』を研究し『 万葉代匠記 』を著す 元【 荷田春満 】…国学の学校建設を吉宗に建議 元化【 賀茂真淵 】⇒『万葉集』『古事記』を研究し、『 万葉考 』を著す

らが日本に伝わる前にあった日本の古典を研究することを主張	化【 本居宣長 】⇒国学を大成、『 古事記伝 』を著す 化【 塙保己一 】⇒和学講談所を設立、『 群書類従 』を著す 化【 平田篤胤 】…復古神道を唱える。国粹主義の立場を強め、尊王攘夷運動に影響を与える	
洋学	元【 新井白石 】⇒シドッチを尋問し、海外事情などを『 西洋紀聞 』などにまとめる 元化【 青木昆陽 】・野呂元丈…吉宗の命によりオランダ語を学ぶ	
	医学	化【 杉田玄白 】⇒『解体新書』『蘭学事始』 化【 前野良沢 】⇒『解体新書』 化【 大槻玄沢 】 ⇒『蘭学階梯』(蘭学の入門書)、江戸の私塾の【 私蘭堂 】を開く 化【 緒方洪庵 】 ⇒【 適塾 】を大坂に開く。福沢諭吉、大村益次郎らが学ぶ
	語学	化【 稲村三伯 】⇒『 ハルマ和解 』(オランダ語の辞書) 化【 高橋景保 】⇒幕府に翻訳所の蛮書和解御用の設立を建議。シーボルト事件で投獄されて獄死。
	物理学	化【 平賀源内 】⇒エレキテル製作
	天文学	化【 志筑忠雄 】⇒『 曆象新書 』(天文・物理学者) 化【 高橋至時 】⇒天文方、寛政暦作成
	地理	化【 伊能忠敬 】⇒『大日本沿海輿地全図』作成